

まちづくり ひろしま

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

第9号(平成26年1月15日)

読者数：446名(募集中)

メールアドレス：hirosima.idea.c@urban.jp

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二

配信元：広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで

□巻頭言

広島の《まちづくり》への思い

広島工業大学名誉教授 森保洋之

■はじめに

迎春！ 近年の大震災を受けて、《まちづくり》の要素・枠組み等に、大きな変容が期待される今日、このことに係る気付き、広島のみちづくりに向けた思い等を、備忘録的に列挙したい。

■《まちづくり》を考える『要素・枠組み』

- ①種々の基本要素：以下に一部を列挙。◎健康・安全・利便・快適、更に、安心・安定、豊かさ・品格等！ ◎個別・多様・効率、更に、高度化等！ ◎論理重視 or 望ましさ重視？ ◎物の世界重視 or 関係性重視？ ◎知識・知恵重視、両者の統合重視？ ◎創る・使う・繋ぐ、育む・守る等の重視！ ◎他。
- ②各種の枠組み：上記と一部重複するが、主に枠組みに係る一部内容を以下に列挙。◎常識・定石、合理・論理・整合、自然体、条理、公正、安定 or 変化、調和、一般 or 特殊、分析 or 包括、名詞的 or 動詞的認識、単純 or 複雑、予定調和的に考える or 考えない、等々を超えて再考を！ ◎従来は「ものづくり技術」、今後は「もの・こと・仕組みづくり技術」を！ ◎社会の「うねり」に身を置き、順次(次第)の改変を根気強く実行！ 社会の「動き・うねり」に対して、追従・中庸重視、真に本質重視？ ◎社会形成の「変化・うねり」をみるには、環境・国際・生活科学・情報・デザイン・福祉看護・景観・地域・再生・観光・経済等々(順不同)の眼差しが重要！ 経済は、新たなマネジメント性が大事！ ◎まちを、居住域・山林域、その境界(域)からみて、従前の居住の場中心から、自然・土地・水、境目、人の営み・生業、空間の共有、等々の図式重視を！ ◎諸々から《まちづくり》を考える枠組み検討を！

■《広島のみちづくり》に向けた思い

以下、その一部を順不同にて列挙。

- ①デルタと丘陵部：広島デルタは、約4000haを超える広さ。丘陵部、殊に西風新都もほぼ同様の広さ。デルタと丘陵部の計画を共に重視を！
- ②近景・遠景、そして中景：広島デルタを例にみると、近景の建物・風景、それに対して遠景の山々島々。他に、デルタ内の山や人工的に造られた都心部高層建物群等の「中景」。この3種を大事に！ その意味で、よい近景・中景を人工的に造ることに、責務を感じることに！
- ③「フロントデザイン」：シーフロント、リバーフロント、そして、グリーンフロントと云う3種を「フロントデザイン」と命名し、《まちづくり》にて重視を！ グリーンフロントデザインは、中景をデザインする、自然の緑をまち・家の緑まで繋ぐ、眺望を生かす等々、緑に包まれた状況を大事にする考え方。つまり、海・川・山(緑)に接したデザイン重視を！
- ④都市の軸線：ルーブル宮からラ・デファンスまで続くパリの歴史軸は「道路による軸線」。広島の場合、100m道路ほかの「道路の軸線」と、平和公園から北上する「心・精神的な軸線」とが存在！ これらの意味の確認と、《まちづくり》としての対応姿勢の明確化を！
- ⑤碁盤目状の道路と水流に沿った河川との織り成す街区：碁盤目状の直線的道路と、複数の河

川の柔らかな曲線の両者の織り成す不整形街区に注目！ その活用可能性を前向きに検討！

- ⑥副都心的エリア：殊に、広島駅・西広島駅周辺、広大本部跡地周辺等の整備・充実を！
- ⑦「種々の計画段階」の相互関連・連続性確保：都市総合計画と都市マス、都市・都心・住宅等々のマスタープラン、他多数、等々の各種の計画において、丁寧な相互関連・連続性確保は重要！ 大きなビジョンの基に、小さな（小規模な）具体的計画を重層的に考えることが重要！ そして、公・共・私、挙ってのまちづくりの役割分担・係り繋ぎ等の仕組づくりを！
- ⑧まちのアイデンティティ重視：まちの歴史・記憶・生活を重視し、まちの活性・再生を！ 生活の情景溢れるまちづくりへの誘いを！
- ⑨視認・視通性等の《知覚されるまち》へ：この認識の基に、大きな修景、小さな修景重視を！
- ⑩動きの中に《まちづくり》を検証：個別のまちづくり、それを動かした要因（人・組織、動かした言葉・要素、等）を記録化。動きの中に、《まちづくり》を「うねり、背景、価値判断、常識・合理・定石とは異なる内容、継承の内容」等々から把握・検証を！ 等々である。

■終わりに

◎《都市計画》と《まちづくり》の狭間に、光、意味・意義、存在感等を求め、新しい形式のまち計画・デザインへと止揚を！ ◎法的に、住民理解が《まちづくりの前提》となって久しいが、真に、その様になっているかの実質的な検証を！ ◎このことには、行政・市民・コンサル等が個々の役割確認を！ 市民は自ら《市民性向上》の努力を、専門家は、まちの「物的身体」づくりに留まらず、まちを思う「心・知恵」育て、まちをよくする「運動性」（泡立ての持続）重視を！ そして、よい希人たりうるかと云う自問自答も必要！ ◎市民の、市民による、市民のための《まちづくり》へ、真の《まちづくり》は、これからが正念場！ ◎以上の枠組み・理念について、《よくよく考え、共有し》、具体のマネジメント構築、等々を！ クールヘッドとホットヘッドの両方を携えつつ、共感の持てる《まちづくり》に向けて、前進することが必要不可欠！ 《了》

ひろしまのまちづくりの動き

○広島大跡再開発計画案公表！

広島大学が東広島市へ統合移転を完了した1995年から宙に浮いていた跡地の未利用地（3.8ha）の活用策が決定。広島市と広島大学が構想した「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト」に対して、三菱地所レジデンスを代表とする企業グループが提案した「広島ナレッジシェアパーク」が採用される。

53階建ての超高層分譲マンションを中心に学生向け賃貸住宅やIT・医療分野の人材育成施設、多目的ホール、病院等を整備する。総事業費は約300億円で、2018年完成を目指す。

学生や留学生向けの知の拠点構想に沿った施設の面積は全体の5.8%、分譲マンションは75.9%である。分譲マンションを誘致しなければ採算が取れないというのが企業側の論理である。もともと「知の拠点整備事業」は大学や研究機関を対象にした文部科学省の施策であり、採算性を追求する民間事業には馴染みにくい。

国や市の財政事情が厳しいのはよく分かるが、だから公共用地を民間に切り売りしてよいことにはならない。公共用地は国民・市民の財産であり、当面の使い道がなければ、市民が共有して利用できるように開放すればよい。市民の力で生き生きとした活用ができる社会にしていかなければならない。

広大跡地として大学の歴史を継承し、真の「知の拠点」構想の実現に向けて100年スパンで取り組むべきだが、当面は隣接する広島大千田キャンパスの強化と広島大旧理学部1号館の有効活用が問われる。広島ナレッジシェアパークが隣接エリアと一体となって知の拠点構想の一役が担えることを期待する。

（編集委員 瀧口信二）



イメージ図（広島市のHPより）

○「ひろしましみんひろばを考える」ギャラリートークの報告

日本建築家協会中国支部広島地域会は「ヒロシマと建築家」展を2013年11月23日～12月3日まで旧日本銀行広島支店で開催した。その中で、広島地域会のワーキンググループ（座長：前岡智之）が「ひろしまのグランドデザイン—ひろしましみんひろば」の模型展示と2回のギャラリートークを行った。



ギャラリートーク風景

「ひろしまのグランドデザイン」はすでにこのメルマガで紹介しているが、ひろしましみんひろばを提案した旧広島市民球場跡地について市民とともに考える有意義な場となった。

以下、市民の意見の概要を紹介する。

○一番印象に残ったのは、ひろばは世界の平和をアピールする中心であり、広島市民のための広場から世界の人々が集まる広場に視点を変えた方が良いという意見。ひろしましみんひろばは、国際交流の場として位置付けているが、具体的にはまだ検討されていない。広島市からの予算(市民の税金)に頼るのではなく、世界から寄付が集まるような仕組みを作れないか。

○旧市民球場跡地にひろしましみんひろばを設置し、その下部にバスセンターを移設する提案に対しては、都市の回遊の起点としてにぎわいづくりに寄与することで大方の賛同を得た。

○既存のNTT所有地及びバスセンターを再開発事業区域とし、商工会議所等の川沿いの施設群を集めて再開発ビルにする案は全く新しい提案であり、高い評価の声が上がった。

○基町高層アパートの屋上を例えばビアガーデンや空中庭園として開放すれば、原爆ドームや広島城等、広島のみちが見渡せる貴重な場所となる。

○旧市民球場跡地にサッカースタジアムを誘致する案に対しては、敷地が狭いので中途半端なものしかできない。期待されている複合機能施設にするためにはゆとりのあるスペースが必要である。球場跡地にはここでなければならない必然性の高い機能を置くべきという意見が多い。

○河岸街とリバーウォークの拡充については、横川駅と紙屋町をつなぐ人の流れを呼び込むためにも賛同する人が多い。ただ、河岸街のイメージは今後詰めていく必要がある。

○一方で、中央公園はできるだけ自然に戻して、平和記念公園と一体となった静寂な場にした方が良いという意見も根強くある。

○また、このような広島のみちを考える場を定期的で開催してほしいという声や折角の模型を活かせるようにしてはどうかという声もあった。球場跡地か中央公園エリアに仮設テントを設置し、模型を常設展示して定期的にひろしまのみちについて考える場が設けられないか。その輪が広がって、そこがひろしましみんひろばに成長していく。行政が決めるのではなく、市民サイドからその機運が盛り上がることを期待したい。

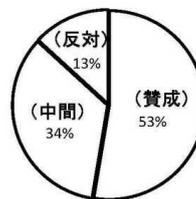
○アンケートの結果

「ヒロシマと建築家」展の期間中、ひろしまのグランドデザインの提案内容についてアンケートを実施（43名の回答）。ギャラリートークに出た意見とアンケート結果は必ずしも一致していない。

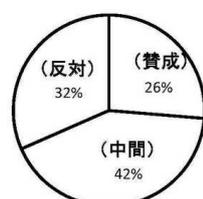
1. しみんひろばとバスセンターを上下にセットにした案に対しては、賛成が過半数だが、どちらとも言えないも多い。
2. バスセンターを球場跡地に移設する案に対しては、どちらとも言えないが多数で、賛成と反対が拮抗している。
3. NTT所有地等の再開発提案に対しては、大多数が賛成である。
4. 中央公園の望ましい姿としては、静寂な場と賑わいの場が拮抗している。

(編集委員 瀧口信二)

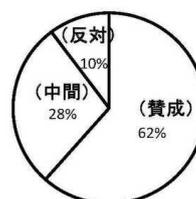
1. ひろばとバスセンターをセット



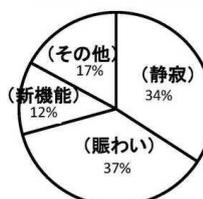
2. バスセンターを球場跡地に移設



3. NTT 所有地の再開発



4. 中央公園の望ましい姿



○広島市の復興の軌跡 (第4回)・・・広島駅前界隈の成り立ち

今、広島駅周辺は再開発が進み、戦後のヤミ市の面影を残していた友愛市場も姿を消した。広島駅前の顔として近代的な佇まいに変貌することは望ましいことではあるが、一抹の寂しさが残る。戦後の広島駅前で繰り広げられた復興の原点ともいえるヤミ市なくして今の繁栄はない。ここに広島駅前界隈の変遷をたどることとする。

1. 戦前の広島駅周辺

広島駅は猿猴川と西国街道が交差する猿猴橋近くに位置する。江戸時代には隣接する愛宕町に宿場があり、猿猴橋通りは人の往来で賑わっていた。日清戦争が明治27年に開戦し、その直前に広島駅が開業する。広島駅北側の二葉の里地区には明治23年に開設された東練兵場が広がり、宇品港につながる兵士出兵の最前線として重要な駅となる。日清戦争時、広島に大本営が置かれたため、ますます軍都の色彩が濃くなり、第2次世界大戦の終戦まで続く。南側は広島駅の玄関口として、いくつかの生活商店街が連なり、まとめて荒神市場と呼ばれていた。

2. 被災後の状況、ヤミ市の発生

1945年8月6日の原爆投下により、爆心地から東に約2k離れた荒神市場一帯も壊滅する。広島駅舎内部も全焼し、多くの死傷者を出したが、生き残った駅職員の懸命の努力により、翌7日には宇品線が復旧し、8日には山陽本線も部分開通した。

人や物資が集まるところに市が立つ。被爆後しばらく経つと駅前広場に自然発生的に露店のヤミ市が立ち始め、日ごとに増えて1946年正月にはバラック建ての店が多数集まっていた。政府による配給制度もマヒし、都市に住む人々の食料や生活物資も底を突く。ヤミ市では法外な価格で品物が取引されたが、生きるためにはそこで手に入れるしかなく、飛ぶように売れた。

ヤミ市は終戦直後に全国的に出現した商業形態で、都市生活の復旧をスタートするうえで一時的な役割を果たした。ある程度復旧が進むと土地の不法占拠に当たるため、ヤミ市の閉鎖と撤去が指導されるとともに戦後の物価統制令撤廃により次第に姿を消していく。

広島駅前のヤミ市も駅前広場から近くの民有地に集団移転したり、4つの民衆マーケットができたが、1949年の大火災によりその大半を焼失し、新たな展開を迎える。

3. 広島駅前再開発の走り

広島駅前地区は戦災復興土地区画整理事業の対象になっていたため大火の跡地には本建築も仮建築も許可されなかった。当面は、市の費用で移動式露店を作り、被災者の希望者に貸与していた。

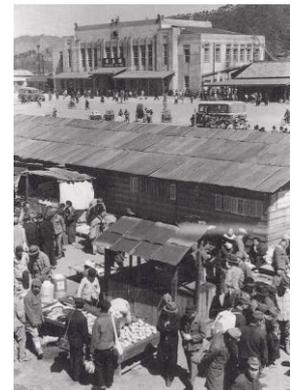
土地区画整理が進み、駅前広場も拡張され、共同店舗の広島百貨店が1952年に開業し、ヤミ市が終焉した。その面影は友愛市場や大須賀地区の街並みに残る。1960年代にはスーパーマーケットのイズミやダイエーが駅前に進出し、広島駅も駅ビルとして新装開店する。

一方、1949年頃から市中央にある八丁堀、本通りの復興が進み、ヤミ市から次第に買い物客が奪われていく。更に天満屋、三越、そごうの進出により駅前地区の地盤沈下が進む。1970年代に入っても駅前地区は広島市の陸の玄関にも関わらず、木造の老朽家屋が密集し、土地利用状況も細分化され、機能的にも景観的にも見劣りしていた。

駅前再開発をめぐる動きはあったが、やっと1981年3月に広島市が「広島駅表口周辺地区市街地再開発事業基本計画」を策定し、新たな広域拠点として再開発することが打ち出された。



1945年、焼けただけれた駅
(菊池俊吉撮影)



1946年正月頃のヤミ市
(山端庸介撮影)



広島百貨店(1952年開店)



友愛市場(2013年1月)

4. 広島駅前再開発の現状

最初に動き始めたのが南口Aブロックで、1988年に第3セクターの広島駅南口開発(株)を設立し、翌年に福屋の核テナントが決定。1996年から工事着手、1999年4月に再開発ビル(エールエールA館)がオープンした。

南口Bブロックはバブル経済崩壊等の影響を受け、ホテルや百貨店の出店計画が白紙になるなど暗礁に乗り上げたが、2006年に住友不動産(株)を事業再構築のパートナーに決定。2012年11月から解体工事に着手し、2016年の再開発ビル竣工を目指して工事中である。

南口Cブロックも2008年に事業コーディネーターとして森ビル都市企画(株)を中心とする企業グループを決定。昨年11月から建物の解体作業を開始し、2016年の竣工を目指す。B・Cブロックとも主用途は住宅、商業施設、駐車場等。超高層の住宅棟は立地が良いので入居率は期待できそうだ。新住民がこの地区の歴史を理解し、愛着が持てる環境を備える必要があり、戦後の駅前の変遷を示す模型を展示できる場が確保されることを提案したい。

※「広島市公文書館紀要第18号」(広島駅前ヤミ市の変遷とその特徴：石丸紀興著)を主に参考にした。(編集委員 瀧口信二)



広島駅前全景(2010.11撮影)(広島市のHPより)

○アイデアコンペの中から提案!

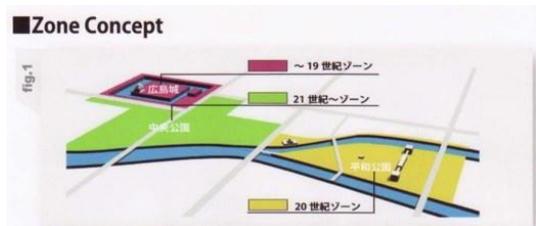
当面、2011年に行った広島市中央公園アイデアコンペの提案作品の中からこのエリアを考えるうえで貴重な提案、アイデア等を紹介していく。

・作品番号7(タイトル「人間性回帰の丘～自然に癒されて～」)

広島城エリアを19世紀以前のゾーン、平和公園エリアを20世紀のゾーン、これらをつなぐ中央公園エリアを21世紀のゾーンと捉えている。ここに平和の丘を作り、原爆ドーム・平和公園を望み、一方で広島城を見渡せる。平和の丘は城南通りの上に橋上化した高台を作り、平和公園と広島城を連続した自然公園とし、自然を体感しながら散歩できる安らぎの空間としている。

平和の丘の下には文化施設・スポーツ施設・遊びの施設等を収め、子供たちが安心して学び、遊べる総合文化施設としている。

人の心が癒され穏やかな精神状態を作り出す空間「人間性回帰の丘」が、この地に最もふさわしいという強い思いが込められている。



平和の丘からのビスタ

提案者：浅野政則氏(自営業)のコメント

まちづくりひろしまは世界に誇れる広島のイメージを創る上で大変重要な取り組みと感じております。世界の大都市には必ずといって良いほど都心に自然を満喫できる公園が存在します。

人は自然に癒されてリフレッシュし、さまざまな創造力が生まれてくるものと考えております。経済の大都市でもある『ニューヨークのセントラルパーク』、『イギリス ロンドンハイドパーク』、『フランス パリ コンコルド広場』など、また、日本にも『東京の皇居外苑』などがあります。商業的な施設も人々が集える空間ではありますが、世代を問わず永い年月を考えると都心の自然空間は人々にとって心を癒し平和を感じる場所になると信じております。

○人物登場：高田 真氏（アーキウォーク広島代表）

1月16日（土）にお会いする。アーキウォーク広島のイベントのさなかである。見学会から見学会への移動の合間を縫って1時間のインタビュー。高田氏はカメラと三脚を持参して現れる。建築写真を撮るのが趣味という。

生まれ育ちは

広島に生まれ、育ち、平和記念公園は自分の庭のように慣れ親しんでいた。基町の護岸デザインに興味を持ったのをきっかけに東京の大学に進学し都市計画を専攻。そのまま東京に勤務する。実家が広島のため、しばしば帰広し、好きな建築の写真を撮り続けた。その溜まった大量の写真を世に出せないかとの思いがアーキウォーク広島の誕生につながる。

アーキウォーク広島とは

アーキウォーク広島は、広島市内を中心に優れた建物を広く市民に紹介し、内外の建築ファンを増やすことにより地域を活性化していこうという市民組織である。建築好きな人が集まり、主な活動として建築ガイドブックの発行と建築公開イベントを開催している。高田氏はアーキウォーク広島の代表だが、建築の専門ではなく、都市計画の仕事に従事している。しかし、建築を見る目はプロ並みだ。特に丹下健三氏については造詣が深い。将来、広島に戻ってくる気持ちを確かめたが、「今は東京で修行しているが、将来的には帰りたい気持ちはある。」との回答であった。

広島のまちは

東京のまちは良しにつけ悪しにつけ江戸を引きずっている。広島は一度原爆で焦土と化したのが、先人たちの苦勞によって、その後の都市基盤が整備されている。例えば河岸緑地は国内の先端を行っており、東京でやろうとしてもなかなか進まない。

逆に広島は歴史の継承が課題である。ともすれば昔のまちや建物の復元という話が出るが、復元で成功した例はなく、おすすめでできない。数少ない成功例は伊勢の「おかげ横丁」だが、それは復元ではなく本物の古民家の移築だからこそうまくいっている。また、東京の「三菱一号館」はレンガを積み直し、装飾も職人が丁寧に再現しており、立派な復元といえるが、莫大なお金がかかっている。広島の場合は、残り少ない被爆建物の保存活用や、昔の木造建物が残っていれば移設してでも保存するなどであろう。いずれにしても本物でなければただのレプリカであり、市民に愛され生きながらえるのは難しい。

また、被爆建物は注目されても戦後の建物には関心が薄いのも課題。例えば被爆校舎が一部保存されている本川小学校には1954年建築の校舎が残っており、モダンの佳作であるが全く知られていない。このまま戦後のモダンな建築が失われていくのは惜しい。

平和記念公園は祈りの場として完結し、いろいろと制約が多い。中央公園一带はイベント等による情報発信など、平和記念公園にはできないことをやれる場にして、互いに機能を補い相乗効果を出すことで、他のどの都市とも違う広島らしいまちづくりが実現するのでは。

広島もまもなく人口減少期に入り、中心部の活性化も将来的には大きな課題になる。高松の丸亀町商店街のような再生成功例はあるものの、どの都市も大変苦勞している。元気のあるうちに先手を打って取り組んでいくことが大切だと思う。

アーキウォーク広島の目標

まず、地元で「建築まち歩き」が散歩のジャンルとして確立することと、外部から建築目当てに広島を訪れる人が増えることを目標にしている。長期的には、多くの市民が建築にこだわりを持ち、オーナーたちも自分の建物に誇りや愛着を持つようになること。結果として、広島都市が美しく魅力的になっていくことを目指している。

▼アーキウォーク広島のホームページ：<http://www.oa-hiroshima.org/>

コメント 建築を愛し、広島を愛する人である。いつの日か広島に戻り、広島のまちづくりに活躍されることを期待したい。

聞き手：編集委員 前岡智之、瀧口信二（文責）



略歴

1978年広島生まれ
都市プランナー。
2009年よりアーキウォーク広島代表

1 我が家の亀は22年になる。子どもがアルパークで百円玉ほどのミドリ亀二匹を買ってきた。今では体長15～20cm程ある。「ララ」「リリ」ちゃんと名前もある。子ども達も我が家を巣立って私が飼育係になった。数年前「リリ」が首に大怪我をしているのを見つけた。亀が水槽の中で喧嘩をしたに違いない。直ぐにあちこちの動物病院に電話してみたが亀はどこも相手にしてくれない。思案の末に安佐動物園に電話してみた。幸いにも可部に爬虫類専門医院があると教えられた。五日市から可部まで片道1時間。亀をダンボール箱に入れて2回通院した。20年以上も一緒だから亀も家族の一員。情が湧き一生懸命になる。毎日、傷口にヨーチンを塗り、水替えを頻繁にして1カ月余で治った。



二匹を一緒にしていると又喧嘩する。近くの川に逃がしてやると亀も喜ぶだろうと医師に相談してみた。「生態系を壊すからやめなさい」と見事に強く諭された。妻の先輩の話聞いてビックリしたことがある。亀(クサガメ)が布団に入ってきて仲良く一緒に寝るのだそうだ。

2 「コト、コト、コト・・・」階段をゆっくり上がって来る。「ガリ、ガリ、ガリ」二階の寝室のドアを引っかく。こうして毎朝、柴犬「モモ」が散歩の催促をする。生後2カ月で我が家に来て11年になる。昼間は庭にいるが夜は必ず家の中で家族と一緒に。せっかく買った犬小屋は全く役立っていない。家族が帰宅するとペットボトルをくわえ、全身全霊で歓迎してくれる。亀の水替えの折は庭に「リリ」「ララ」を放す。「モモ」はこの見張り番で安心だ。油断すると茂みに入った亀を見失うが、匂いを嗅いで直ぐに探し当ててくれる。昨年、乳腺腫の手術をして体調を崩すことが多くなってきた。

近年はペットブームと云われる。「喜怒哀楽を共有できる」「愚痴も聞いてくれる」ペットは口が堅いから大丈夫だそうだ。動物の世話は手がかかるが、それ以上に家族を癒してくれてきた。いつまでも見守ってやりたい、いや見守られているのかも知れぬ。

○読者からの投稿

投稿者 石丸弘枝 (広島市民)

一都市平和主義のままでよいのか？球場跡地

キャロライン・ケネディ駐日大使や、オリバー・ストーン氏など、加害国アメリカの著名人が広島に思いを寄せて意見を述べるようになったり、ネット上、外国人観光客が日本で行きたい場所の第1位が広島だったり。私たち地元市民の想像以上に、海外でヒロシマのことが改めて注目されている昨今ですが、地元、原爆ドーム横のあの場所で繰り広げられているのは、ほとんど食べ物むしやむしやイベントばかりです。この街の能のなさ、平和ボケぶりを露呈しているようで、情けない気分になってきます。

ではあの場所で世界平和を願って何か成したい事があるのか、と高尚なことを問われると、私自身これといった意見があるわけではありません。

ただ、あの場所に何がふさわしいのか選ぶ難しさは分かるつもりです。

広島市はあの場所に文化芸術の施設を造る方針でいますが、あの場所で、「表現の自由」と「平和主義」が共存できるのでしょうか？演劇・映画・アニメといったストーリーを創作する文化だと、あの場所に持って来られる作品、持って来られない作品と分けなければいけないことになるのではないですか？神楽『八岐大蛇(やまたのおろち)』映画『仁義なき戦い』アニメ『機動戦士ガンダム』、どれも原爆ドームの隣で観るには支障のある戦闘的作品です。

しかし世代、又は国境を越えて強く人気のある作品でもあります。あの場所に演劇やアニメなどの文化施設を造りたがっている方たちは、結局そういったところをどうしたいのでしょうか？市長や市の職員はどうしたいのでしょうか？平和主義の観点から差し障りの無い作品のみを上演（上映）するのでしょうか？しかし表現の自由の無いところに文化の発展がありますか？

周辺の商業施設の方たちは大勢人が集まってくるような大衆的なもの・人気のあるものを望んでいる。文化関係者は彼らの要望にどう応えるのでしょうか。広島市が設置した跡地検討委員会は、その辺の突っ込んだ話し合いを何もしていません。真剣に突っ込んだ話し合いも無いまま出された案に、一市民としては賛成のしようがありません。文化施設を望む方たちに、戦闘物作品をシャットアウトしてでも（表現の自由の点をとやかく言われようとも）ヒロシマにふさわしい作品創り・ヒロシマにふさわしい文化発展に打ち込む気概が本当にあるのなら、私としては文句ありませんが。

同じく戦いを表現しているものでも、スポーツなら差し障りは無いと言えるでしょう。スポーツには初めからルールがあるから。スポーツに殺人のシーンは出てこないから。その意味ではサッカースタジアムが一番良いのかもしれない。周辺の商業施設にとっても集客力が見込めるものなので。私個人はサッカー嫌いなので興味ありませんが。ただ、娯楽を楽しむ自由がなければ平和とは言えないし、街に活気があることと、原爆ドームとの対比の中に平和を感じることは、私もカープの試合を観に行った折々感じていたことなので、食べ物むしゃむしゃイベントよりは賛成します。

だがしかし、自分たちの街の活気のことしか考えないような、一都市平和主義のままでいいのか、という苛立ちを覚えなくもありません。冒頭に述べたように、海外の人たちが真摯にヒロシマと向き合おうとしている今、私たちがあの場所でやるのがサッカー観戦にふけることでよいのでしょうか？確かにあそこは大勢の人々が集い何かしている明るい場所であってほしいのですが。

そんなこんなで、あの場所にはこれが良いときっぱり言えるものが私の中にはありませんが、外国人観光客も交わりやすく、平和を感じ取って帰れる場所にしてほしいと思います。

□編集後記

“まちづくりひろしま”は、第9号の発行を迎えた。今では450名の読者を迎えており、益々充実してきている。次回は2桁になる時に初心を振り返ってみたい。

広島で建築を学び、それぞれ社会に出て、建築を中心にまちづくりにかかわってきた私たちが損得を求めない中で楽しくまちづくり活動をやろうと集まった。

そもそも私たちがメルマガを発行したのは、2年前の広島中央公園アイデアコンペにさかのぼる。全国からアイデアを公募し市民が投票する市民参加型のコンペであった。応募者数72、市民投票400余、一応の成果をあげた。（結構、楽しかった。）

しかし、私どもの期待はもっと大きなものだった。せめて1000名は投票してもらえる。市民は、もっともっと関心があるはずだ。と

私達は、頭を抱えた。まちづくり活動を楽しんでいるだけなので、大半の市民は、関心をもっているものだと考えていた。しかし、現実には、知人友人に頼んで投票してもらう有様だった。

悩みの中で、とあるシンポジウムで、私は湯崎知事に質問した。

「みんなに知ってもらって一緒に考えていきたいのになかなか解ってもらえない。どうしたらいいのかわかるのか」と。知事の答えは、「一人一人広げていってそのうち大きく知られますよ」だった。そこで、このメルマガが始まった。みんな楽しく読めるまちづくり情報を待っているのだから、なによりも私達は、楽しくやっているのだから。

これから400がまず1000になることを楽しみにして。まだまだ続く`o^^o^^o`

（編集委員 前岡智之）

*ひろしまのまちづくりについて

皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください!

(投稿は500字程度でお願いします)

編集委員

石丸紀興	広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視	心豊かな家庭環境をつくる広島21理事
瀧口信二	広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷 章	ガリバープロダクツ代表
前岡智之	中国セントラルコンサルタント代表
三宅恭次	ひろしまコミュニティカレッジ代表